

# 大阪の中心で西条の魅力を発信!

## えひめ西条 物産・観光フェア



多くの来場者があった大阪・心斎橋でのフェア

去る9月23日、サイクスは西条市とともに大阪市の心斎橋にあるスポニチプラザ大阪で、「えひめ西条 物産・観光フェア」を開催しました。この取り組みは、名水に育まれた豊かな「食」と、折しも紅葉間近となった石鎚山などの観光といった、西条市が有する資源力の奥深さを広くPRして「西条ブランド」の認知度アップを図るとともに、関西圏の飲食店関係者と西条の企業とのマッチングを目的としたもので、市内の酒造事業者4社と食品加工・流通事業者2社が参加しました。

フェア当日、開始時刻にはまだ時間があるというのに、イベント会場の外には長蛇の列ができていました。道行く人も何事かと立ち止まり、会場内に所狭しと並べられた西条の魅力あふれる物産品を興味深げに覗き込むほどです。そしてオープン。扉が開いたその瞬間、待ちかねていた人々が一斉に押し寄せました。会場を埋めた多くの来場者の中に、西条市出身という一人の女性がいらつしやいました。その方からは、「西条が懐かしい。ふるさと西条を、これからもっとPRして欲しい」とエールを送っていただきました。そのほかにもスタッフに、「絹かわなす」を使ったお勧めのレシピや西条野菜・加工食品の特徴を尋ねる人、また会場に貼られたポスターを見て西条祭りについて繰り返し質問をする人など、西条市の魅力を大きく発信する絶好の機会となりました。

一方、酒造事業者による試飲・販売コーナーには、西条の豊かな自然環境の下で造られた自慢の地酒が並んでいました。来場者はその一つひとつの味を確かめながら、好みに合ったものを購入できるとあって、両手いっぱい買い求める人の姿も見られました。大手外食チェーンのバイヤーからは、「全国各地に優れた地酒は数多くあるが、それらを発掘するのは容易なことではない。このように一度に紹介することは、非常に貴重で良い取り組みである」と、高く評価をいただきました。

そのほか、西条市の参加企業と関西圏の飲食店等との間で49件もの商談も行われ、新たな取引先の開拓に結び付く事例が生まれるなど、一般消費者への物産・観光PRだけでなく、地域経済の振興にも一定の成果を上げることがなりました。



フェアに出店した企業の皆さん

今後、都市部等の小売店や飲食店経営者などのマッチングの機会を創出するとともに、サイクスが有する広範なネットワークを活用し、西条という「まち」全体を売り込んでまいります。

フェア当日、開始時刻にはまだ時間があるというのに、イベント会場の外には長蛇の列ができていました。道行く人も何事かと立ち止まり、会場内に所狭しと並べられた西条の魅力あふれる物産品を興味深げに覗き込むほどです。そしてオープン。扉が開いたその瞬間、待ちかねていた人々が一斉に押し寄せました。会場を埋めた多くの来場者の中に、西条市出身という一人の女性がいらつしやいました。その方からは、「西条が懐かしい。ふるさと西条を、これからもっとPRして欲しい」とエールを送っていただきました。そのほかにもスタッフに、「絹かわなす」を使ったお勧めのレシピや西条野菜・加工食品の特徴を尋ねる人、また会場に貼られたポスターについて繰り返し質問をする人など、西条市の魅力を大きく発信する絶好の機会となりました。

■フェア出店企業の感想  
 ○石鎚酒造(株) (写真①)  
 多くの来場者に自分たちの酒を伝えることができ、またお客様の生の声を聞くことができると思う。  
 ○首藤酒造(株) (写真②)  
 来場者の多さに驚いた。イベントの回数を重ねていけば定着していくものと思う。  
 ○成龍酒造(株) (写真③)  
 野菜や水、その他の製品と一緒にお酒をPRできたことは、とてもよかった。関西圏で取引先を広げていきたいと考えている。  
 ○武田酒造(株) (写真④)  
 さまざまな方と名刺交換をしたり、商品の説明を行うことができて、良いイベントであった。

○(株)ミーティン・クラフト (写真⑤)  
 多くの西条産品をPRすることができ、大変満足できる結果であった。  
 ○(株)志賀商店 (写真⑥)  
 物産展と商談会の両立は難しいと思う。次回からは、それぞれ分けて行った方が良いのではないか。

西条市には絹かわなすをはじめ、春の七草やアスパラガス・愛宕柿など、数多くの特産品があります。今回のフェアのように、その時期に旬となる野菜や食材などを、実際に手に取りさらに味わっていただくような、季節に応じた企画の重要性を痛感しました。サイクスでは、食の創造館を拠点として、地場産品の販路拡大や農工商連携による新商品開発支援など、高付加価値化に向けた取り組みを展開しています。